

海の応援団

VOL. 3 海を活かす・守る・興す 人づくり (山形県立加茂水産高校)

私たちに豊富な恵みを与えてくれる"海"。この連載では、海を守り育て、未来に引き継ぐ活動や、海を生かした地域活性化の取り組みを紹介します。今年には山形県で全国豊かな海づくり大会が開催されます。この機会に海の大切さへ目を向けてみませんか。

■問合せ／本所農山漁村振興課 ☎25 - 2111内線558

高度な知識や技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成するため、国が先進的で優れた取り組みを行う専門高校等を指定する制度、「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール(SPH)」。

実践研究「鳥海丸」を生かした実践研究に取り組む山形県立加茂水産高校は、全国に30校しかないSPH指定校の1つです。「本校の教育目標は、地域社会に貢献できる人材育成です。実践研究も『海を活(い)かす人づくり』『海を守る人づくり』『海を興す人づくり』の3つが柱となっています」と話すのは校長の佐藤淳先生。同校では3年生が2～5人のグループに分かれ、3本柱に沿った個別研究・開発に取り組めます。その内容は、窒素水を凍らせた鮮度保持に優れる「窒素氷」の研究やサンマを原料とした新製品開発など水産物の高付加価値化・6次産業化を目指すものや岩ノリの陸上養殖の研究など海洋資源の保全を目指すもの、未来のエネルギーとして期待される海洋資源「メタンハイドレート」を研究するもの等多岐にわたります。進め方



宮城県気仙沼市でサンマ節の製法を研修する生徒。現在、庄内農業高校と連携し、同校で作ったうどんに合うサンマ節のタレを開発中です。

も様々で、先進地を視察しヒントを見つけたグループもあれば、大学や民間企業の協力を得て研究を進めるグループもあります。事例発表等を通してほかのグループの進め方、成果を共有できるようにしています。「多くの知識を蓄えること、そして知識を組み合わせ、課題を解決する力を培うことが必要です。実践研究が訓練の場にもなればと思っています」と佐藤校長は話します。

「残念ながら、山形県の漁業生産額は全国で下位を争う状況。漁業従事者も減少しています。しかし、寒ダラ汁やハタハタの田楽など庄内浜の魚は、鶴岡の食文化に深く関わっています。水産業を盛り上げ、地域の漁業、海洋資源を守ることは、地域の活性化にもつながります」と佐藤校長。「地域を支え、元気にする『海・船・水産物のプロフェッショナル』を育てていきたい」と語ってくれました。



千葉県柏市で最先端の深海探査ロボット「江戸っ子1号」の説明を受ける生徒。今年はこの「江戸っ子1号」で庄内沖のメタンハイドレート撮影に挑戦します。

第36回全国豊かな海づくり大会
山形大会キャラクター

「もっけだのん」

大会本番まであと132日
《5月1日時点》



編集・発行／鶴岡市総務部総務課

鶴岡市役所 本所	〒997-8601 (メールアドレス) (ホームページ) (フェイスブックページ) (窓口受付時間)	山形県鶴岡市馬場町9-25 ☎0235-25-2111 FAX0235-24-9071 tsuruoka@city.tsuruoka.lg.jp http://www.city.tsuruoka.lg.jp https://www.facebook.com/tsuruokacity 月曜～金曜日(祝日・年末年始除く) 午前8時30分～午後5時15分
藤島庁舎	〒999-7696	市内藤島字笹花25 ☎64-2111
羽黒庁舎	〒997-0192	市内羽黒町荒川字前田元89 ☎62-2111
櫛引庁舎	〒997-0346	市内上山添字文栄100 ☎57-2111
朝日庁舎	〒997-0492	市内下名川字落合1 ☎53-2111
温海庁舎	〒999-7205	市内温海戊577-1 ☎43-2111

→メールは
こちらから



→ホームページは
こちらから



《人口と世帯》(平成28年3月31日現在)
住民基本台帳人口合計：130,849人
(男：62,321人、女：68,528人)
世帯数：48,452世帯